



▲冬芽のついていない枯れた枝は、元枝に沿って滑らかに伐り落とします。これは成長とともに表皮が切り口を覆いやすいためです。

小田さんはまず、樹木の健康状態を知るために「葉」を見るそうです。葉は日光を受け、光合成を行い、エネルギーをつくっています。葉の大きさ、色、艶、量など、様々な点を観察します。周囲の環境が樹木の生育に影響を与える場合もあります。日当たりはよいか、枝や根を十分に伸ばす場所があるかなど周囲の環境を広く見ることも必要です。

また、健全な森林の管理には、適正な剪定（はく）の時期や仕方があります。樹木は夏から秋にかけて光合成をし、栄養分を蓄えて、冬の間はその養分を維持しています。そのため伐るの



▲手入れするコクチナシ  
すす病は葉などの表面がすすをかぶったように黒くなります。

であれば、成長が止まっている秋から冬が負担が少ないといわれています。樹木が健康な状態を維持することができるといえるような手入れが必要です。

小田さん「健康な樹木に育てるためには、手入れを施した後も観察を続けていくことが大切です」その後、どう樹木が変化していくかを見ることができ、毎年の健康状態を比較できるようになっています。

実際に小田さんは、カイガラムシが発生し、すす病の被害を受けたコクチナシの木の処置を行っています。継続した観察と地道な処置によって今年も花が咲くことを期待しています。



コナラを除伐作業

### 里山の資源を活かして

2月に開催された「シイタケの菌打ち体験」は上野森林公園で毎年、開催されている人気行事のひとつです。この行事を企画・実行しているのは、森林公園のボランティア団体「モリメイト」です。職員とともに、まだ手つかずの敷地の森林整備を行い、豊かな里山づくりを進めてきました。

この日、シイタケの原木として利用するのは、晩秋に除伐（じよばう）したコナラの木です。倒木や枝折れなどで危険な木を選んで伐っています。参加者はシイタケの育て方などに



菌打ち体験



シイタケのほだ場

▼モリメイトのみなさん（右端が芝田さん）  
長さ4メートル程のヒノキの丸木橋はモリメイトの手作りです。モリメイトでは一緒に活動する方を募集しています！

ついでにお話を聞いたあと、電動ドリルで穴を開け、菌打ちをしました。豊かな里山の資源を活用した体験であり、子どもと大人が一緒になって自然と触れ合えるよい機会となりました。翌々秋にはシイタケが発生する予定です。参加者のみなさんはとても楽しみにしています。

